皇居ランナー

「危ない」マナーに苦情

観光両立 急ぎ足

地元協会「10カ条」配布へ

東京都心の皇居外周（1周約5キロ）を走る「皇居ラン」のマナー問題で、地元が観光面からも対策に乗り出し始めた。周辺のビジネスマンやOLばかりでなく、観光の一環として全国から集まるランナーも増え、「危なくて安心して歩けない」との声も無視できない。歩行者と共存するためマナーを浸透させようと、ビジネス街などにも協力を呼びかけている。

観光客やランナーが行き交う皇居周辺

「狭いところは1列で」「追い抜く際には声かけを」――。千代田区観光協会と、更衣室やシャワーを備えた近隣のランナー向け施設など14団体は今月、皇居ランナーのためのマナー10カ条を取りまとめホームページに掲載した。この10カ条を掲載したパンフレットも一万部以上作成。ポスター約50部とともに、マナー向上活動に賛同した地元企業などを通じて月内にも配布する予定で、矢継ぎ早の対策に乗り出している。

皇居周辺には2007年の東京マラソンの開催以降、ランナー向け施設が続々と開業し、全国から集まる観光ランナーに狙いを定めた宿泊プランを打ち出すホテルも現れた。「最近は遠方から上京するランナーも増えている」（区観光協会）としており、新たな観光資源ともなるだけに、歩行者とのトラブル解消は重要な課題となっている。

走路は観光名所の皇居前広場や東御苑、丸の内のオフィス街とも接するため、スピードの違う歩行者と混在する。とりわけ、皇居北部の歩道の狭い坂道がトラブル多発地点。今月初めの週末、美術展を見た帰りに皇居沿いを散策していた仙台市の女性（39）はこの近くで立て続けに3回、ランナーとぶつかった上「邪魔だ」と叫ばれた。「ゆっくり景観も楽しめないなんて悲しい」と嘆く。

同協会は「貴重な観光資源でもある皇居周辺のイメージ悪化は避けたい」と、マナー向上運動を提案。呼びかけに賛同した施設と6月に連絡会を立ち上げ協議してきた。参画したランナー向け施設「ジョグリス」（千代田区）の笹井瑞樹さん（33）は「皇居ランの恩恵を受ける者全体が連帯する必要がある」と地域ぐるみの対策の必要性を強調する。

皇居ランナーマナー10カ条

①左側走行を心がけます
②狭いところは1列で。追い抜きは避けます
③できるだけ反時計回りで、逆走は控えます
④混雑時はタイムにこだわらず、常にゆとりあるペースを心がけます
⑤追い抜き・追い越しの際の「声かけ」を心がけます
⑥グループ走は広がらず、大集団にならないよう工夫します
⑦クールダウン、集団での立ち話、そぞろ歩きで歩道をふさぎません
⑧音楽プレーヤーのボリュームは控えます
⑨ゴミは必ず持ち帰ります
⑩いつでも思いやりのこころを持って走ります

（千代田区観光協会などが作成）

フォローアップ

月1回ペースの意見交換では「押し付けになっては逆効果」との慎重論があったのも事実。実際、古株の皇居ランナーから「多くのビギナーにとって皇居は貴重なデビューの場。一部の非常識なランナーを気にかけ、プールに水を差す結果にならないか」（49歳の男性会社員）と、冷ややかな声も上がる。

千代田区観光協会の事務局次長、印出井一美さん（48）は「自然に恵まれた都心空間をランナーが駆ける美しい風景を保つためにも、歩行者とも互いに好感を持てるマナーを地道に浸透させたい」と話している。

市民マラソン混雑、自治体対策

定員枠を設置 コース見直し

市民ランナーの集まる場所は、大阪市の大阪城公園、名古屋市の名城公園など全国各地に広がっている。空前のブームに沸く一方、事故防止のため自治体が対応を迫られるケースもある。

月刊「ランナーズ」を出版するアールビーズによると、昨年度の主要なフルマラソン大会での完走者は約16万6千人と5年前から倍増。来年2月の第5回東京マラソンの申込者は過去最多の約33万5千人（定員の約9・6倍）に達した。来秋以降、大阪、神戸、京都、名古屋でも大型市民マラソンが誕生する予定だ。

参加者が増え、実施方法を見直す例も出ている。茨城県の「かすみがうらマラソン」は4月の第20回大会から2万5千人の定員枠を設けた。

京都府警を交えた今月の検討会で、市街地周回のコースへの変更を検討することにした。同市は「盛り上がれるが、事故の恐れがあった」（事務局の土浦市教委）。2012年3月の「京都マラソン」の開催準備を進めている。

この4年間で申込者が2倍になり「これ以上増えると道路混雑による事故の恐れがあった」（事務局の土浦市教委）。

ランナー大会を開催する京都市などは当初、安神宮をスタート・ゴールの地点にした市内中心部のコースを考えていた。だが、新たに設けた。